

ホテル雅叙園東京

小倉 一純

ついこの間、「ホテル雅叙園東京」が問題となっていた。

結婚式場のキャンセル騒動（二〇二五年二月）である。ホテル雅叙園東京というのは、以前の目黒雅叙園である。昔は「目黒雅叙園」と「雅叙園観光」という二つの企業が隣接していた。

その雅叙園観光だが、多額の負債で二〇〇〇年を待たずに倒産している。古い洋館の格式あるホテルを運営していた。館内にはそれこそ国宝級の名画も飾られていて、ホテル全体が美術館のような様相を呈していた。

雅叙園観光ホテルは、元々は、目黒雅叙園の新館として営業を開始している。現在は残念ながら取り壊されてしまった。

僕の亡くなった父が役所を退職した後、その雅叙園観光に再就職をした。当時は東証一部上場の企業だった。

父が入社してから分かったことだが、社長室に座っている人物は、ある暴力団の組長で前科十一犯という経歴のつわものだった。

父の前職がある役所の局長だったので、ホテルでは、その社長から「局長さん」と呼ばれていた。彼は、堅気には極めて人当たりのいい人物だったという。

組の若い衆が社長室へやってくると、彼の風貌をガラツと変え子分を叱咤する。最後にはポンと肩を叩いて札束の小遣いを渡してやる。正月になると、ホテルの職員全員を社長室に集め、やはり小遣いを渡してくれた。

彼は当時、仕手集団の代表だった。仕手集団とは、陰で暴力団的手法を發揮しながら、企業の株を買い集め、乗っ取りを図る連中のことである。

相場は折悪しく大暴落した。有名な「ブラックマンデー」である。社長は、現状維持のため、ヤバイ筋も含めて大金を借りまくった。

父たちに「出かけてくる」と新幹線出張

に出たきり、現在までその行方が分かっていない。「コンクリート詰め」という言葉が僕の脳裏を過る。

現在の雅叙園はクリーンな企業であると思うが、雅叙園という名前を聞くと、僕の中ではこんな記憶がふと蘇る。